

114
A4579



大正十一年四月
限候爵邸寄贈

司藥場ニ於テ教師マルチニ氏ノ分析スル是柄縣

管下伊豆國熱海鑛泉ノ定性定量表及ヒ東

京鑿學校教師ホフマン氏定ル所ノ功能書左ノ如

鏡水一千立方センチメートル即チ一リートル中左ノ成分ヲ

含ム

コロールナトリウム 三、七九〇〇

コロールマグネシウム 二、三三三〇



| | |
|-----------|--------|
| コロールカリウム | 一八一〇〇 |
| コロールカルシウム | 一七六七〇 |
| 硫酸石灰 | 〇、一九三〇 |
| 重炭酸石灰 | 〇、〇〇四二 |
| 珪酸 | 〇、〇一〇〇 |
| オーコロールマンガ | 跟跡 |
| 有機物 | 同 |
| フロムカリウム | 同 |

フロムナトリウム 同

総量一〇、〇一〇三ガラム

此ノ鑛水ハ含^{サリニセツセル}塩鑛水ニシテ其中多量ノ「コロールカリ」
 及ヒ「コロール土類」少量ノ硫酸塩類ヲ含有スルモノナリ
 其温度ハ湧出ノ時間ニ隨テ甚差異アリ因テ其含
 ム所ノ固形成分ノ量モ亦甚不同ナキヲ能ハス故其
 成分ノ多寡ヲ精密ニ知ント欲セハ湧出各時ノ鑛水
 ヲ採リ検査スルヲ要ス〇此ノ鑛水中含ム所ノ遊離

炭酸及ヒ其他遊離瓦斯ノ分量ハ其ノ鑛泉ノ
場所ニ於テ検査スルニ非サレハ之ヲ確定スルヲ克ハス
熱海ノ地タルヤ箱根ノ山麓ニ在リ高山其北ニ屏立
シ三冬ト虽厄北風及ヒ東北風ノ暴烈ナルヲ拒キ南ハ
海ニ面シテ新鮮ナル海風ヲ西南ヨリ受ク故ニ其季候
最モ温和ナリ夏時ニ於テモ亦然リ身ヲ養ヒ病ヲ療
スルニ適シ且ツ其温泉アルヲ多キニ因テ諸病ヲ治スルニ

最モ宜シトス今其諸泉中ノ一ニ就テ学士マルサシ氏ノ
化学的検索ニ從ハ固形分僅少ナリト虽厄飲料或
ハ浴湯トシテ之ヲ諸病ニ用ユヘシ此ノ温泉ノ主成分ハ
食塩ニシテ、ゴロールカリウム、ゴロールマグネシウムヲ少シク含メリ
其他元素ハ些少ニシテ別ニ効用ヲ為スニ足ラス今已
ニ久シク経験セン歐洲中ノ温泉ノ最モ類似スルモノニ
從テ其主治効用ヲ示ス左ノ如シ
カ一浴法ハ華氏ノ九十八度乃至百度列氏ニ九

度乃至三十度設氏ノ三十七度乃至三十八度ノモノ
ヲ毎日一度或ハ二三度用井若シ其湯熱キニ過レ
ハ之ヲ冷スニ井水ヲ用エハカラス只長ク放冷シテ其
度ニ至ラシムヘシ

甲 小兒ノ腺病及ヒ其ヨリ生スル諸症

乙 風濕及ヒ慢性ノ痛風 患者ノ堪エキ熱度ニ後テカ所及
高度ヲ要ス大抵華氏百四度迄

丙 火性滲出ニ於テ其火既ニ退クノ後滲出物ノ吸
収ヲ促進ス

丁 尿管外水液漏出及ヒ通常ノ水腫ニ於テ又吸収
ヲ促進スル功アリ

戊 脚氣ノ水腫ヲ兼ヌル者

己 皮膚ノ神至病

才ニ飲料ハ四々乃至十二々毎日一二回即チ毎朝或ハ
朝多草ニ之ヲ用ヒ或ハ井水ヲ加ヘテ飲服ス

甲 慢性胃傷風及ヒ慢性下痢

乙 慢性ノ咽喉及ヒ氣管支傷風

丙慢性膀胱傷風

丁慢性腔及子宮傷風

浴法及ヒ腔内注射法ヲ並用ス

戊膽管ノ慢性傷風

己慢性胃及ヒ腸ノ傷風ヨリ発スル鬱憂病

此ノ諸病殊ニ其運行怠慢及ヒ皮膚或ハ粘液膜ノ弛緩セルモノニ飲料及ヒ浴法トシ用ニハシ

千八百七十四年八月二十六日

於東京

学士ホフマン誌